

平成29年度 学校自己評価表（計画段階・実施段階）

39

福岡県立香椎高等学校長 印

学校運営方針		学校運営計画（4月）		評価（3月）	
『自ら考え、情報を収集・選択でき、主体的に行動する人材の育成・輩出を目指す』 1 自主的・主体的に活動できる生徒を育成する。 2 身だしなみや礼儀が正しく、明るくさわやかに挨拶できる生徒を養成する。 3 教師としての専門性を高め、教育活動の質的向上を図る。					
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標	
3年間継続的に取り組んできた評価法の開発や教科横断的な視点による学習指導計画の改善などにより、本校のランドデザインが構築された。今年度はルーブリックの深化を図り、評価のあり方の研究と開発を進めていきたい。 また、入学者選抜では県内最多の志願者があり、本校教育活動が一定の評価を頂いたことは、職員にとって取組みの自信につながっている。 昨年度SPHの指定を受け、様々な取組みが行われ、本年度学科名もファッション・デザイン科へ変更された。このSPHの取組みが普通科にも好影響を与え、「多様性」を認めあう本校の教育活動に相乗効果が生まれるよう進めていきたい。		○新たな学力観を見据えた教育課程の構造的編成と評価の更なる充実 ○常に自己を高める気概と、他者に対する寛容性を持った生徒の育成 ○部活動生を支援するための複眼的指導体制の充実 ○キャリア教育の確立と進路指導の充実 ○学校行事を通じた新たな学力の向上 ○普通科及びファッションデザイン科におけるアイデンティティの確立		(1) 職員間及び職員と生徒との信頼関係の構築による組織的な教育活動の展開 (2) ICT機器（含電子黒板）の活用促進と、アクティブラーニングによる授業の質の向上 (3) 教科横断的視点によるカリキュラム・マネジメントの充実・改善 (4) 本校独自の観点別評価の充実とルーブリックの作成 (5) 安心して失敗できる学校文化の醸成 (6) 特進クラスの進路目標に応じた授業及び課外等の総合的充実・改善 (7) 伝統的な身だしなみ及び所作・動作の習得 (8) 思いやりや事を取りめる力など、人間関係調整力の養成 (9) 地域住民や他校種、同窓会等とのさらなる連携・交流 (10) グローバル人材の輩出を目的とした異文化交流教育の積極的実施 (11) 教職員のキャリア発達を促すための研修の充実 (12) 普通科とファッションデザイン化のアイデンティティの確立と相互理解 (13) SPHをはじめとしたカリキュラムや授業内容の研究・開発の推進	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
教務	新たな学力観に則った授業改善	電子黒板やICT機器を活用して授業改善を行う。特に2学期以降の積極的な使用を図る。			
	スケジュール管理の徹底	クロスカリキュラムに基づく授業やオリンピック教育を行い、他の教科との連携を図る。			
	成績システムの活用	生徒手帳(School Diary)を活用し、自分のスケジュール管理を徹底する。 生徒の成績や進路希望などを把握し、生活習慣の改善の指導に活用する。			
	ネットワーク環境の整備及び管理	情報課と連携しながら、システムの安定化を図る。 各種データの活用を積極的に行い、正確なデータの把握に努める。			
	校内のICT環境の整備及び管理	成績等の処理管理システムの運用支援を行う。 情報セキュリティの管理意識の啓発を徹底する。			
	ICT活用指導力の向上	ICT機器の貸出簿を活用し、備品不足や不具合への対処を迅速化し、利用実態の把握を行う。 OA教室の備品の更新に関して調整を行う。			
	外部への情報発信及びその支援体制の確立	新しく増設したプロジェクターの新機能を研究し、使用の普及に努める。 プロジェクターの管理方法についての見直しを行う。			
	防災・危機管理に対する意識の向上	電子黒板の管理や使用方法を確立する。 eメッセージの配信を適宜行い、発信連絡も常に行うことで保護者への情報提供を徹底する。			
	式典や教育活動に関する記録の充実	広報課と連携して、ホームページの更新や内容充実のための技術支援を行う。 防災訓練をできるだけ早い時期に実施し、訓練内容を全員が詳細に把握できるようきちんと説明する。 避難経路を常時教室掲示し、常日頃からその経路を可能な限り使用させ自主性を高める。 年度当初に危険等発生時対処要領を作成する。			
生徒指導	PTA、同窓会、地域住民との連携・交流の充実	儀式の意義を理解させ、各課と連携を図りながら、円滑に実施されるように調整し、全職員の協力のもと、厳粛で礼儀正しい式典にする。 出版物の作成に早めに取り掛かり、内容を協議し、より多くの人員で校正を行う。			
	全教育活動を通じた、判断力・人間関係調整力・企画力などの自己指導能力の育成	外部の方々と連携する場を設定し、多くの方にご参加いただき、民主的な教育の振興を図る。 ICT機器を活用し、参加しやすい環境を作る。 創立100周年に向けた組織作りに着手する。			
	部活動の活性化及び強化	身だしなみ、所作・動作の習得や校則の遵守などはゼロトレランスを基盤とした上で、最後まで指導を行う。 学校行事や部活動、委員会活動等を通じて、リーダー、フォロワーの育成に努める。また、自己存在感や自己肯定感を醸成し、自分の立場・役割に応じた立ち居振る舞いを習得させる。 毎月の定例会の実施、月目標の設置、文化部との連携等の取組みにより、生徒専門委員会の活性化を図る。			
生徒	生徒指導の充実	部活動生集会や部長会を定期的に行い、部活動生の意識の向上に努め、学校行事等を通して自主的に行動し学校へ貢献できる生徒を育成する。 担任、教科担当者、部活動顧問の連携による複眼的な生徒指導を行うとともに、広報課と連携して部活動生の活躍を発信していく。 日頃の指導を通して心身を鍛え、責任感や連帯感を涵養する。また、専門的技能を強化し競技力向上を図る。			
	センター的保健室経営の充実	全職員が教育目標に則り、ゼロトレランスを基盤とした指導を行い、報告・連絡・相談の徹底を図ることができると指導体制を構築する。 教員間、生徒同士の縦と横のつながりを通して有機的な関係が構築できるように、リーダーシップ、フォローアップの更なる醸成に努める。また、行事における実行委員会、リーダー研修会の充実を図る。			
	学習環境整備ができる生徒の養成	交通安全指導を中心に、登下校指導や集会時にマナーに関する注意喚起を行う。			
保健環境	健康観察、保健指導、健康相談を充実させる。	健康観察、保健指導、健康相談を充実させる。 各学年、各課と連携し、生徒情報の共有を図る。 傷害医療申請などの手続きの円滑化を図る。			
	健康教育推進事業や学校行事等での傷害、事故防止活動	全職員が責任をもって清掃・監督をする。 全職員が教室環境整備に気を配り、目に見えないところまで意識して清掃に取り組むよう指導する。 清掃活動の改善を図る。特に美化コンクールにおいては、評価表を作成して、評価規準を明確にして清掃活動を充実させる。			
	熱中症防止講習会、安全・救急講習会、献血講習会等の健康教育推進講習会を計画的に実施する。	熱中症防止講習会、安全・救急講習会、献血講習会等の健康教育推進講習会を計画的に実施する。 全職員で学校行事における傷害、事故防止に努める。 保健委員会が健康教育推進事業を推進する。			
生徒支援	生徒支援課としての組織力の強化	フローチャートに沿って迅速な対応ができる体制を作る。 学年コーディネーターを中心に、担任会・課会・教育相談委員会等で、情報の共有とフィードバックを行う。 外部研修やスクールカウンセリングの申し送りに参加することで、専門性を高める。			
	教育相談機能の充実	配慮を必要とする生徒に対して、個別の支援計画や生徒情報シート等を活用し、継続的支援や見守りを行う。 各種アンケートの円滑な実施と集約を図り、いじめ・不登校対策等をサポートする。 いじめアンケートの報告や校内研修等を通して、全職員に対して継続して啓発を行う。			
	外部関係機関・保護者との連携強化	新入生の保護者や中学校と連携を強化し、入学時からの支援体制をつくる。 保護者の理解と協力を得て、進学・就職先に申し送りを行う。 スクールカウンセラーや医療機関等から助言を受けながら、より良い支援の方法を検討する。			

進路指導課	キャリア教育と進路指導の充実	学んだことが役に立つ経験や自分の適性を見出すことを取り入れた職業・学問分野調べを実施し、3年間を見通した「総合的な学習の時間」の体系的な運用を行う。 生徒自らが情報を収集し、講師を選択し、講師を招聘する「黒門セミナー」の充実を図る。 類型別集会や進路講演会、就職・公務員ガイダンスの実施を通じ、卒業後の職業を見据えた進路指導を行う。			
	高校卒業後の進路先を保障するための課外の実施	基礎学力の定着と応用力の育成を図る教科別習熟クラス編成を実施する。(1、2年生) 希望進路実現のため、生徒の実態とニーズに応じた選択必修制を実施する。(3年生) 国立大学・難関私立大学合格のための応用力育成を図る特進クラスの放課後課外を実施する。(1、2年生)			
	希望進路実現のための模擬試験の有効活用	事前指導(目標設定・具体的計画等)と事後指導(振り返り・分析・新たな目標設定)の充実を図る。 学年や各教科において、事後指導につながる、目的を持った分析会を設定する。 看護医療・就職・公務員・小論文等、進路希望に応じた模試の活用を行う。			
	本校の魅力ある教育活動、特進クラス、指定強化部、進路・部活動の実績の明示、志願倍率の増加による入学希望者の質的・量的な向上	他校にはない本校の生徒の魅力を全面に出した夏秋2回の体験入学を実施する。 継続的に1日体験入学やPTA学校訪問を受け入れる。 中学校訪問や学習塾訪問を年数回行い、普通科・ファッション科のアドバンティエーの普及に取り組む。			
広報課	本校の発展的な教育活動の広報による、中学校や地域社会へ本校の認知度の向上	情報課や部活動と連携を図り、ホームページの改良と改善を行う。 ホームページや香椎駅掲示板を最新版に更新する。 学習ボランティアを中学校に派遣することで、本校生の魅力や学力の定着、人間性を中学生に認知させる。			
	生徒会や部活動との更なる連携及び本校の校風や伝統、生徒の魅力を前面に出した広報活動の実施	メディアを通じて、明るくさわやかな本校生徒をPRする。 生徒が出身中学校を訪問し、恩師への挨拶や部活動への参加・指導を行う。 学校案内は、在校生に意見を聞き、中学生が興味を惹き関心が高まるものを作成する。			
	質の高い授業につながる研究授業や公開授業の実施	ビデオを撮影するなど、効果的に合評会を行うための準備をする。 授業アンケート結果や1学期の公開授業を踏まえた、各教科代表者による研究授業を実施する。 研究紀要『葉脈』のさらなる充実を図る。			
	校内・校外職員研修の充実・発展	効果的な職員研修を計画、実施する。 専門研修等への積極的参加と全職員への還元を図る。 教育研究事業指定校等、先進校への学校視察を実施し、その還元を図る。			
研究・開発部	人権教育の充実・発展	「総合的な学習の時間」を活用するなど、すべての教育活動における人権教育を推進する。 生徒の実情に応じた、人権教育特設授業づくりと展開の工夫を行う。 人権教育に関する研修会への参加と全職員への還元を行う。			
	図書館教育の充実と国際交流事業の充実・発展	図書館利用の促進に向けた取組みの工夫を行う。 生徒主体の百人一首かるた大会を実施する。 普通科の希望者を対象とする海外研修旅行の実施に向けた情報収集を行う。 ホームページに成果を載せるなど、生徒への短期留学案内の整備と事前事後の指導を充実させる。			
	失敗を恐れず、主体的に課題の解決を図ることのできる力の育成	基礎学力の充実を図るとともに、進んで学ぼうとする意欲を育てる。 進んで自学のできる生徒を育成する。 部活動や学校行事に積極的に参加させ、人間関係調整力を身につけさせる。 次世代のリーダーとしての自覚を涵養する。			
	基本的な生活習慣の確立	伝統的な身だしなみを守り、高校生として端正な所作・動作のできる生徒を育成する。 時間厳守を徹底させ、効率の良い時間の使い方を身につけさせる。 正しい言葉遣いやさわやかな挨拶のできる生徒を育成する。 他者に思いやりの心を持ち、協調してことに当たることのできる態度を身につけさせる。			
1学年	進路意識の喚起	二者面談や三者面談を通じて、早い時期に適性に沿った進路の方向性を決めさせる。 「総合的な学習の時間」を活用して、様々な職種や学問の分野を調べ、進路選択の一助とさせる。 プレゼンテーション活動を通じて、情報収集力、要約力、発信力を身につけさせる。			
	自ら進んで活動する生徒の育成	AIを利用して学習意識の向上を図る。 観点別評価の意味を理解させ、ルーブリックを活用させる。 「総合的な学習の時間」や外部模試を利用して、進路意識を向上させる。			
	明るくさわやかな生徒の育成	学年職員の意識を向上し、ゼロトレを徹底する。 場をわきまえた所作を身につけさせるとともに、あらゆる機会を利用してモラル教育を行う。 多様性を認め、尊重する態度を育成する。 何事にもチャレンジできる環境・雰囲気を作る。			
	香椎高校の伝統の継承と更なる発展	今あるものを当たり前のことだと思わせない。 学校行事や部活動を通じてリーダーを育成し、同時にフォロワーシップも育成する。 目の前のことだけにとらわれず、先を見越した行動や発言をさせる。			
2学年	社会人として相応しい人間力の育成	礼節をわきまえ、相手の状況に配慮した適切な行動ができる生徒を育成する。 先を予測し、安全かつ計画的に他者と協働する生徒を育成する。 香椎生としての誇りを持ち、学校の代表として相応しい行動ができる生徒を育成する。			
	自主的・主体的に活動する生徒の育成	何事に対しても積極的にチャレンジし、意欲的に取り組む生徒を育成する。 学校行事や部活動でリーダーシップを発揮し、言動を通じて後輩に範を示す生徒を育成する。 自己の進路目標達成に向かう自主的な学びを促し、支援する。 生徒情報を共有し、学年全体で生徒の活動を支援する体制を強化する。			
	自己の適性と能力に応じた進路の実現	「総合的な学習の時間」を通じて自己の生き方や使命について考えさせ、具体的な将来像を持たせる。 プレゼンテーションを通じて自己表現力を磨くとともに、他者の意見を理解し進んで協働する生徒を育てる。 自己の適性に沿った進路目標を自らの意志で設定し、その実現に向けて全力で取り組ませる。			
	学びの高度化と身についた力に見える化	SPH事業や社会人招聘事業の授業への位置づけの明確化によりカリキュラムの充実を図る。 教科・科目を超えた横断的視点により、専門教科「家庭」の深化を図る。 評価予定表及びルーブリックの作成と活用により、学習評価の充実を図る。			
ファッションデザイン科	キャリア教育の充実による高い志を持つ生徒の育成	SPH事業等で多様な価値観や職業観に触れさせることにより、高い志を醸成する。 生徒の変容を継続的に測る「生徒意識調査」の研究と結果に基づき、キャリア教育指導の充実を図る。 高度な資質を身につけた専門的職業人を育成する。			
	広報活動の充実	中学校訪問、中高交流サービス、校外ファッションショー等における教育活動の情報発信を行う。 体験入学、小高連携、進路相談事業、校外作品展・ファッションショーにおける生徒発表の情報発信を行う。			
	共通教科「家庭」及び家庭クラブ活動の充実	複数教員担当により、専門性が発揮できる教育内容を充実させる。 共通教科「家庭」における専門学科家庭の取組みを踏まえた授業改革を行う。 学習で習得した知識・技術を学校や地域の生活の場で生かす家庭クラブ活動の充実を目指す。			
評価項目	学校道徳教育重点目標	具体的方策			
	豊かな知性と健やかな心と体、豊かな人間性と高い倫理観を育て、社会や国・地域の発展と活性化に貢献しようとする「志」ある人間の育成を目指す。	クロスカリキュラムによる相互援助体制を行うことで、助け合いの心を育てる。 面談や多彩な講演会により、生徒個々の「志」の形成を図る。 展示会ファッションショー等の学習成果を発表する場をさらに充実させる。 地域連携を通して外部の大人たちと接する機会を多く設定する。 海外研修に向けて語学力と表現力の育成に努める。 生徒主体の学校行事等を通して、他者へ貢献する態度を育成する。 本校の伝統と地域で果たすべき役割を考えさせ、個々の言動に対する責任を自覚させる。			
道徳教育等	ファッションデザイン科にあっては、その家庭科専門教育を通して、地域・社会に貢献する志と高い倫理観や社会性、道徳性を育て、これからの社会や地域に有為で信用信頼される人間づくりを目指す。				
	師弟同行のもと生徒の自主性と主体性を重んじ、仲間との協働を通してものごとを成し遂げる体験を通して学校文化の深化を図る。				